

佐世保市立広田小学校

所在地 佐世保市広田1丁目25番4号
校長 沖島 宏幸
学校規模 34学級 児童数1051名 (H28.5.1)

学校教育目標

主体的に考え、正しく判断して行動できる
心豊かでたくましい子どもの育成

1. テーマ

地域と連携した、小中連携教育

2. 目的

(1) 地域人材を生かし、体験活動を取り入れることで、心豊かな児童の育成を行う

1000名を超える大規模校ではあるが、地域に恵まれ、様々な体験活動が実施できる。学年の発達段階に応じた体験と地域の方々との交流は、教室では獲得できない総合的な力の育成となる。また、読書への興味・関心を高め、様々な本との出会いを促すため、図書ボランティアの協力による読み聞かせや図書室の整備を行い、幅広い学力の育成を図る。

(2) 課題に対する指導法を工夫し、確かな学力の定着を図る

全国学力・学習状況調査や県・市の学力テスト結果から把握した本校ならびに地域の課題を解決できるよう、指導法の研究を行ったり、学習教材の整備をしたりする。また、活用する力を育成したり、そのための基礎となる「基本的な学力」を定着させたりするため、課題に応じたプリント周到を整備する。さらに、学習習慣の確立等基本的生活習慣の定着に向けた取組や、集中力・基本的学力を付けるための「朝の時間の活用」を学校全体で工夫する。

(3) 来年度からの小中一貫型小学校・中学校に向けた準備を整える

県内初の取組として来年度から始まる「小中一貫型小学校・中学校」の周知を万全に行い、スムーズにスタートできるように準備を整える。そのために、児童はもちろん、地域や保護者の願いを把握し、理解を図るとともに、学習や生活における具体的な取組等の検討を重ね、最大限の成果が上がるように方法を工夫する。



3.「特色ある学校づくり」の実践

(1) 地域人材を生かし、体験活動を取り入れることで、心豊かな児童の育成を行う

サツマイモの栽培 2年生

J A 西海農協の方々の協力により、学校の花壇でサツマイモのツル差しを行い、秋にはたくさんの芋を収穫することができた。収穫した芋を使って保護者と協力し、「おいもまつり」を開催した。そこにはJ Aの方に対する感謝の気持ちと招待した1年生に対する引継ぎの心をもって参加していた。



昔遊び交流会 総合での地域学習 3年生

老人会と連携し、地域のお年寄りをお招きして、昔遊びを通した交流会を今年度も実施した。

けん玉、あやとり、おはじき、羽子板、お手玉などの昔遊びをお年寄りの方々に教えていただいたり、共に遊んだりすることで、子どもたちは日本の伝統文化を体験し、お年寄りから多くのことを学ぶことができた。またその技の巧みさに、尊敬の念を感じることもできた。

総合的な学習の時間には、地域の方をゲストティーチャーとしてお招きし、地域に伝わる伝統行事についてわかりやすく話をしていただいた。子どもたちは熱心に話に聴き入り、広田の地域により愛着を感じることもできた。その活動から広田の歴史にも興味をもち、広田城跡を調べる活動につなげることができた。

平和学習 4年生

6月に行った長崎平和学習では、長崎さるくガイドの方々の話を真剣に聞き、理解を深めることができた。また、初めて見る被爆遺構や原爆資料館から子どもたちは、平和の尊さを強く感じていた。班別で行動し、適切などころで説明していただいた「さるくガイド」の活用は、大変効果的であった。



大豆の栽培・味噌作り 5年生

J A 西海農協の協力で、学校の敷地内で大豆の栽培を行い、味噌をつくる活動を行った。残念ながら今年度は大豆の栽培に失敗し、収穫を得ることはできなかったが、この活動を通して、栽培の難しさを味わったり、いただいた大豆で味噌づくりを体験し、農産物を加工する伝統の知恵を学んだりすることができた。児童は学んだことを壁新聞にまとめ、校内に掲示して他の学年の児童に伝えることもできた。

長崎国際大学との連携・交流 6年生

広田小学校では毎年、長崎国際大学が近隣にあることを生かし、大学の施設で児童が日本文化等に関する体験学習を行ったり、本校に海外からの留学生を招待して交流学習を実施したりしている。こうした活動を通して、児童の国際理解に関する意識が高まってきている。

〇われら地球人「茶道体験学習」

今年度の総合的な学習のテーマを「われら地球人」とし、運動会の表現から年間を通して、日本の伝統文化を考える活動を行った。6月には、体験学習として、「茶道体験学習」に取り組んだ。長崎国際大学の茶室で、茶道の専門家と茶道部の学生の方から指導を受け、わびさびの世界を味わうことができた。最初は緊張していた様子だった児童も、丁寧に指導をしていただいたおかげで興味・関心をもって



取り組み、品格の向上と礼儀の体得という茶道が求める精神世界にふれ、日本のよき伝統を守りたいという気持ちが高まった。

ここで学んだ礼儀やマナーが、普段の生活でも発揮できるように学校での指導を行っている。

○留学生の方々との交流

国際理解教育の一環として、長崎国際大学の留学生の方々との交流学习を行っている。毎年、様々な国の留学生の方々と実際にふれあい、それぞれの国の文化について学んだり、日本の伝統的な遊びを共に楽しんだりする活動を行ったりしている。

これらの活動を通して、児童は外国の文化を体験的に理解し、異文化への興味・関心を高めるとともに、日本の文化についても改めて見直す機会となった。

(2) 課題に対する指導法を工夫し、確かな学力の定着を図る

①サマーチャレンジ（夏休み学習会）の実施

平成18年度より、夏休みに「サマーチャレンジ」を実施している。実施時間は2時間で、前半の時間に7月までに学習した算数の学習プリントに取り組み、後半の時間に自分で計画した学習に取り組んでいる。学年毎にグループ分けを行い、各グループに教師を配置し、子どもたちの指導・質問に対応している。また、学習サポーターとして東翔高校の生徒が来校し、児童の学習を支援してくれた。学ぶ側、教える側ともに大変好評であった。今年度も4年生以上の算数に苦手知識をもつ児童が参加した。

前期前半までの学習内容の確認と定着のための学習会として定着している。

②朝のチャレンジタイム・読書タイム

月曜日朝の時間帯8:30～8:45の15分間を「チャレンジタイム」とし、プリントでの基礎基本学習を行うことにより、計算力などのスキルアップを図っている。

また、木曜の朝の時間帯は「朝読書」の時間とし、読書活動に取り組んでいる。読み語りボランティアグループ「よむよむ」さんに来校していただき、学年毎に絵本の読み聞かせを行っている。

児童はこの読み語りをとても楽しみにしており、読書への意欲が高まってきている。来年度は中学校校舎でも実施を計画している。



③学力向上に向けた授業の工夫

児童の学力の充実と、意欲・関心を高めることを念頭におき、次のような視点をもって授業の工夫に取り組んでいる。

■同学年や隣接学年による授業研究

大規模校である本校では、初任者をはじめとする若手教員も多く、同学年による話し合いや授業研究等を通して学年統一した指導体制の構築を図っている。

■少人数・TT授業の実施

専科や加配教員の活用による、児童にとってわかる授業のための指導体制の充実や、教材研究を推進している。



■個に応じた学習教材の整備

ワークシートや課題プリントを活用し、学習内容の定着と思考力の向上を目指す。各教科課題別のプリント集を整備することで、個に応じた学習の推進につながっている。

■総合的な学習を効果的に進めるための教材整備

本校は1000名を超える大規模校であるために、交流学习や体験学習を行うにも工夫を要する。児童一人一人の考えを大切にしながら、地域に根ざした学習を進めるために、子どもたちが活用しやすい教材や道具を整備し、自主的な学習を促すことができた。

(3) 来年度からの小中一貫型小学校・中学校に向けた準備を整える

来年度から始まる、6年生が広田中学校敷地内で活動する「小中一貫型小学校中学校」の実現に向け、様々な準備を行ってきた。

①児童や地域・保護者対象の説明会の実施

県内で初めての取組である小中一貫型小学校中学校への実施に向けては、児童や保護者の理解と協力が必要である。また、初めてのことに對する不安があることも事実である。

そのために、小・中の職員で何度も話し合いを行い、教育実践の方針や方策を検討してきた。

また、その内容を児童や保護者と共有するための説明会も行ってきた。

②周知するためのパンフレット等の作成

小中一貫型小学校中学校についての理解を深めるため、内容をわかりやすく説明したパンフレットや連携だよりを発行し、保護者や地域に周知を図った。また、一貫型小学校中学校であることを広く周知するために、学校の外壁に看板を設置

することになっている。また中学校内の小学校校舎には、6年生の校舎という表記も行う。そのことが中学校へ通う6年生に、自分の母校であるという認識を深め、希望をもって登校できることにつながると確信している。



③特色ある教育の実践

中学校校舎で学習するメリットを生かすため、次のような教育を推進していく準備を行っている。

1 中学校職員の活用

校舎内に中学校職員がいるために、今まで以上に連携した教育を実践できる。特に、外国語教育では、指導時数を増やすことで教育課程以外の活動を行い、外国語（英語）への興味・関心を深め、中学校で始まる英語教育へつなげる。また、音楽や書写等の芸術的教育でも、専門性のある中職員の活用を図ることで、質の高い教育の実践を行ってきたい。

2 中1ギャップを軽減する

中学生との日常的な交流や行事への参加は、中学校進学への不安を解消し、あこがれと希望をもって小学校を卒業、進学できることにつながる。また同じ校舎に、小学校の担任と中学校の職員が常駐していることで様々な相談体制を構築でき、安心して学校生活をおくることになる。さらに、小中職員の児童、生徒理解も深まり、連携した教育の実践を行うことができる。

区 分		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
各教科の授業時数	国 語	306	315	245	245	175	175
	社 会			70	90	100	105
	算 数	136	175	175	175	175	175
	理 科			90	105	105	105
	生 活	102	105				
	音 楽	68	70	60	60	50	50
	図画工作	68	70	60	60	50	50
	家 庭					60	55
体 育	102	105	105	105	90	90	
道徳の授業時数		34	35	35	35	35	35
外国語活動の授業時数						35	60+25
総合的な学習の時間の授業時数				70	70	70	70
特別活動の授業時数		34	35	35	35	35	35
総授業時数		850	910	945	980	980	1005+25